

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●ダノンファンタジーが阪神ジュベナイルフィリーズ優勝

12月9日(日)に行われた阪神ジュベナイルフィリーズ(G I)ではダノンファンタジー(牝2歳/栗東・中内田充正厩舎)が1番人気に依って優勝しました。同馬の生産者ノーザンファームは、ジャパンカップのアーモンドアイに続いて今年のJRA・G Iで13勝目をマーク。同牧場が持つ年間最多勝記録(昨年11勝)をさらに更新しています。

●重賞ウイナー3頭の競走馬登録抹消

2014年日経新春杯(G II)などの勝ち馬サトノノブレス(牡8歳/栗東・池江泰寿厩舎/JRA通算34戦6勝・海外2戦0勝)、2018年東海テレビ杯東海S(G II)などの勝ち馬テイエムジンソク(牡6歳/栗東・木原一良厩舎/JRA通算28戦9勝・地方2戦0勝)、2016年・2017年京阪杯(G III)の勝ち馬ネロ(牡7歳/栗東・森秀行厩舎/JRA通算41戦8勝・地方6戦0勝)は、12月12日(水)までに競走馬登録を抹消されました。今後テイエムジンソクは北海道日高町のテイエム牧場日高支場で種牡馬となり、サトノノブレス、ネロも種牡馬となる予定ですが繋養先は未定です。

●ヤマニンパラダイスが死亡

12月7日(金)、ヤマニンパラダイス(牝26歳)が死亡しました。同馬は1994年阪神3歳牝馬S(G I/現:阪神ジュベナイルフィリーズ)を勝つなどJRA通算17戦4勝の成績を残し、産駒には京成杯(G III)勝ち馬で種牡馬となったヤマニンセラフィムがいます。現2歳の産駒を最後に繁殖牝馬からも引退しており、北海道新冠町の錦岡牧場で余生を送っていました。

●全日本新人王争覇戦にJRAの3騎手が参加

2019年1月22日(火)、高知競馬場で行われる「第33回全日本新人王争覇戦」に、JRAから武藤雅騎手(美浦・水野貴広厩舎)、横山武史騎手(美浦・鈴木伸尋厩舎)、富田暁騎手(栗東・木原一良厩舎)の3名が参加することとなりました。同競走は騎乗技術等において模範となる初免許取得後5年以内の騎手が招待されるもので、JRAの3騎手は地方競馬所属の騎手9名とともに2レースを戦うことになります。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●アイアンテラーがクイーン賞(船橋)を逃げ切り重賞初制覇

クイーン賞(Jpn III、12月12日、船橋、1800m)は、先手を取った2番人気のアイアンテラー(浜中俊騎手、牝4歳、父ゴールドアリュール)が、3番人気のサルサディオオーネを3馬身引き離して逃げ切り勝ち。ハービンマオは4着、1番人気の昨年の覇者プリンシアコメータは10着に敗れています。

●カベラS(中山)に挑んだ船橋のキタサンミカヅキは3着

カベラS(G III、12月9日、中山)に挑戦、2番人気に推されたキタサンミカヅキ(船橋)は、中団から差を詰めたものの、前走のJBCスプリントに続いて3着という結果でした。

●ダービーグランプリ(水沢)は地元岩手のチャイヤブーン

ダービーグランプリ(12月10日、水沢、2000m)は、出遅れながらも4番手の外に取り付いたチャイヤブーン(牡、父フェデラリスト)が、直線に入って間もなく逃げるクリノヒビキ(兵庫)を捉え、単勝1.5倍の支持に応じて6度目の重賞制覇を果たしています。

●メイクハッピーらが出走、12月19日の全日本2歳優駿(川崎)

全日本2歳優駿(Jpn I、12月19日、川崎、1600m)は、メイクハッピーを筆頭に、ガルヴィハーラ、デルマルーヴル、ノーヴァレンタの4頭は高いレベルで拮抗しており、以下ミューチャリー(船橋)、ショウナンガナドルの順に有力視されます。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●香港国際競走~香港調教馬が全勝、日本馬は3度の2着まで

4つのG1を1日でまとめて開催する香港国際競走が12月9日に香港のシャティン競馬場で行われました。日本からは9頭が出走しましたが、G1香港ヴァーズ(3歳上、芝2400m)のリスグラシュー、G1香港マイル(3歳上、芝1600m)のヴィブロス、そしてG1香港C(3歳上、芝2000m)のディアドラの2着が最高着順という結果でした。G1香港ヴァーズを制したのは香港のエグザルタント(騾4歳、父テオフィロ、A.クルーズ厩舎)。リスグラシューとの競り合いを制しました。G1香港スプリント(3歳上、芝1200m)とG1香港マイルはそれぞれ香港のミスタースタニング(騾6歳、父エクシードアンドエクセル、F.ロー厩舎)とビューティージェネレーション(騾6歳、父ロードトゥロック、J.ムーア厩舎)が先行策から抜け出してともに連覇を達成。G1香港Cは香港のグロリアスフォーエバー(騾4歳、父アーケンコ、F.ロー厩舎)が逃げ切って、重賞初制覇をG1の大舞台で飾りました。なお、香港国際競走が現在の4レース体制で行われるようになった1999年以降、全レースを香港調教馬が制したのは初めてのことで。